デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2018年（平成30年）4月30日（月曜日）（23）

治療3回、実績着々

八戸市民病院 ドクターカーV3

16年1月以降、蘇生事例も

八戸市立市民病院と八戸工業大が共同開発し、国内で初めて出動先での手術を可能にした「ドクターカーV3」。人工心肺補助装置（PCPS）などの医療機器を搭載し、主に心肺停止状態となった患者の蘇生処置などを行うことができる。2016年1月の初出動以来、これまでに計10回出動し、うち3回は手術などの治療が行われ、退院に結び付いた事例もある。今後、実績を積み重ね、一刻を争う現場で救命救急の切り札として浸透するか注目される。（三浦千尋）

V3は一般の車両を改造し、人工心肺補助装置や人工透析、人工呼吸器などを搭載。現場では主に2メートル四方のテントを張った「処置室」で治療する。

事故や急病人が発生した際、ドクターヘリやドクターカーで現場に先行した医師の判断でV3が出動要請される。

出動したのは、初年の16年が3回、17年が5回、18年が2回（4月26日現在）で、このうち実際に現場で手術などの治療を施したのは計3回。16年12月に同市河原木のフェリー埠頭付近で発生した水難事故では、心肺停止となった女性（当時40代）に対し、人工心肺補助装置を使って施術。女性は市民病院に搬送された後、心拍が再開し、無事に退院した。V3による迅速な治療が蘇生につながった初の事例となった。

出動要請が出るのは特別なケースのため、まだ件数は少ないものの、同病院救命救急センターの野田頭達也所長は「3件の事例に対応できたことで、救命救急に携わる医師やスタッフの自信になった」と強調。

安全面を考慮し、現在は平日の日中に限られている運用に関しても、経験を積むことでさまざまな方法を模索し、救命率の向上につなげていきたい考えだ。

また、青森県内外から多くの医療関係者が視察に訪れているといい、「全国の救命救急に携わる医師が注目している。この分野のパイオニアとして、実績を積み重ねていきたい」と力を込める。

一方、心肺停止から時間が経過すると蘇生の確率は低くなるため、現場に居合わせた人による心臓マッサージや、自動体外式除細動器（AED）の活用など治療までの対応が蘇生の鍵を握るという。

野田頭所長は「年齢などさまざまな条件もあるが、初期対応で結果は大きく左右される」と指摘。救命救急に対する地域住民の意識向上を課題に挙げ、今後は消防署など関連機関と連携し、救命救急の啓発にも力を入れていく方針だ。

ドクターカーV3で処置を行った事例

発生現場	要請概要	年齢	処置内容
八戸市	水難救助	40代	処置室を展開し、PCPSを使用して治療
七戸町	心肺停止	60代	処置室を展開し、PCPSを使用して治療
東北町	心肺停止	80代	処置室は展開せずに治療を実施

運用開始から10回出動したドクターカーV3＝八戸市立市民病院、26日